

## 忍び寄る「マクロウイルス」の恐怖

コンピュータウイルスは一般誌にも登場したことも有りましたが、Windows 95 登場してからあまり聞かなくなりましたが、現状はどのようなのでしょうか。

そもそもコンピュータウイルスは、知らない間に入り込み（感染）、「潜伏」中は症状を表さないが、いずれ「発病」するものです。タイプとしては、ウイルスを含むプログラムを実行した時のみ発病する非常駐型と、立ち上げ時に起動し、システムメモリに常駐してしまう常駐型があります。発病は、一定期間が過ぎたり、特定の日付になったり、ある一定の操作をする事によってはじめて起こるものですから、なかなか感染経路がわからないものになっています。これまでの感染経路としては、フロッピーディスクを媒体として、そのやり取りによって被害が増大する事がほとんどでしたが、企業パソコンがLANに接続され、インターネットの爆発的普及によってネットワークを媒体とした感染の機会が増えてきています。

これまでのウイルスは、単独のプログラムでファイルの隙間に隠れるような物がほとんどでしたが、アプリケーションのマクロ機能を利用したマクロウイルスというまったく新しいタイプが登場してきています。その名の通りマクロウイルスはマクロ言語で書かれたウイルスですから、現在のところターゲットは英語版のWordとEXCEL（ほとんどがWord）です。マクロウイルスはこれまでのウイルスとは異なり、マクロというデータとして作成され、Wordの文書ファイル、EXCELの表計算シートに感染します。つまり、感染した文書ファイルを電子メールで送る事によって感染が広がる事になります。イントラネットを構築した環境で、マクロを利用した定型文書を使って作成した社長の訓示文などのWord文書を同報通信で配布した場合、そのメールを受け取った各社員がその文書を開いただけでウイルスのプログラムが実行され感染してしまいます。マクロウイルスの例としては、Wordの文書から感染し、オープンクローズを300回繰り返すと表示色の設定を破壊するものや、「WAZZU」という単語が勝手に文章中に挿入されるものがあります。確かに今のところ英語版のWordなどでのみ感染し、日本語版にはマクロそのものが日本語されているため感染した例はありませんが、作ろうとすれば簡単にでき、マクロウイルス開発キットまでがインターネットで配布されていますから、安心してはいられない状況です。

マクロウイルスという新種のウイルスが登場してきた背景にはインターネットの普及とアプリケーションの高機能化があげられます。高機能化によってマクロが登場し、ユーザが使いやすいようにできるようになりましたが、その自由度が高くなればなるほど高機能なウイルスが登場するようになってきています。特にインターネットでのプラグインソフトのダウンロードの際には十分に注意する必要があります。

このようにコンピュータウイルスは、決して下火になったわけではありません。これまでのようにFDで感染するだけでなく、メールでもインターネットでも感染する状況になっているというのが現実です。

(情報誌トピックス)

○ 経コンビ 4月28日号

特集 加速する「情報化ブーム」

→1960社へのアンケートから、基幹業務再構築や2000年問題への対策がここ1～2年でピークを迎える。短期決戦で情報化へ対応しようとする企業が集中し始めている。

特集 企業連携の本命「エクストラネット」

→社内情報の活用にインターネットの技術を使ったイントラネットに続き、企業間情報システムに拡大した「エクストラネット」。企業同士を結ぶシステム形態の本命となる

○ 経エリテ 4月21日号

特集 ネットワークコンピュータの真実

→パソコンを主体としたコンピュータシステムで膨れ上がった管理コストを下げるために登場しようとしているネットワークコンピュータ。理想には届かず、現状では企業向けの専用機用途をねらう  
現在まで発表された機器の解説

○ 経ホソ 4月21日号

特集 あなたも必ず経験する「パソコンの失敗」大研究

→パソコンを使う上でだれもが経験する失敗。実際の失敗談からパソコンの落とし穴と教訓について特集

特集 次世代高速通信回線はどれを選ぶ

ベストはISDN、PHSそれとも56kbpsモデム?

→インターネットを取り巻く通信回線の環境は4月になって大きく変化している。それぞれを例を取って説明

トレンド 実用段階に入った高速PCカード

→PCカードの新しいインターフェースの規格「CardBus」が実用段階に入ってきているが、動作しない機器があるなど混乱が続いている

製品情報 パソコン性能ランキング(デスクトップ型)

→ビジネスモデルでLS550が12位、13位

製品情報 バイヤーズガイド

TFT液晶モニター10機種を徹底比較

○ 経サイ 5月号

特集 「故障」の常識を斬る

→思わぬところに潜む「故障」の原因。常識では考えにくい思わぬ故障の原因にスポットを当てた特集

解説 安くなってきた100M Ethernetの実力

→パソコンの性能は従来の10BASE-Tではもはやボトルネックになるところまできている。これからは10BASE-T/100BASE-TX両用のLANアダプタを選択し、スイッチングハブの低価格化を待つのが賢明

解説 イントラネットはもう古い 開発ツールは分散処理へ  
→これまでのC/Sシステムは、LAN環境におけるアプリケーションを開発しようとするものであり、注目されてきたイントラネットはC/Sシステムほどの高速性が期待できないため、情報の入力/更新系ではなく、情報照会システムとして構築されている。分散オブジェクトは、複数のコンピュータに分散したオブジェクトを物理的には位置を意識することなく連携して機能/負荷分散を行う。これからはイントラネット上でのアプリケーションの開発が中心となる。

○ ASCII 5月号

特集 あなたの疑問に答える！

→いろいろなものが次々と出てくるパソコンの世界。何と無く分かっているようで分かっていない最新技術についての疑問に答える特集。CPUからOS、アプリケーションまで。

特集 パソコン周辺機器道を究める

→マウスから一風代わった周辺機器まで

○ SUPER ASCII 5月号

特集 新任管理者のためのNTワークグループ・ネットワーク強化月間

→自然発生的に構築できる95を使ったワークグループネットワーク。簡単に構築できるが管理もされていないため問題も発生する。セキュリティ管理も可能なNT4.0 Workstationを利用したネットワークの機能と効果的設定法、運用法の解説。

速報 これがPentium IIだ！

→ソケットからスロットになったINTELの最新プロセッサの解説

レポート 次世代Windowsデスクトップはこうなる

→Internet Explorer 4.0ではローカルのエクスプローラと統合され、単なる最新のWWWブラウザの面の他に次世代のWindowsのデスクトップ環境を垣間見せている。

レビュー 急成長するワークグループサーバ

→小人数に対応した小規模サーバとしてワークグループサーバが製品化されている。低価格化が進んでいるワークグループサーバについてその実力を検証している。apricot FT1200が記事となっているが、サーバとしては問題のある内容となっている。

○ DOS/V magazine 5月1日号

特集 作る！こだわりの逸品

→満足のいくパソコンにするには。その改良、改造、リサイクル法

特集 大予想！MemphisとNashville

→Windows 97になるMemphisとInternet Explorer 4.0になるNashvilleがどうなるかを予想し、次のデスクトップ環境を予想する